

## 理工系線形代数学 NO.3 要約

### 今日のテーマ:連立方程式の解法と行基本操作

連立一次方程式は行列算で表現できる。例えば、

$$\begin{cases} x + y = 5 \\ 2x + 4y = 16 \end{cases}$$

は

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 \\ 16 \end{bmatrix}$$

と表現できる。さらに、 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 4 \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ ,  $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} 5 \\ 16 \end{bmatrix}$  とおけば、これは更に簡潔に  $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$  と表記できる。

更に次のような方程式を考えてみよう。

(あ) 
$$\begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 4 \\ 4 & 5 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 \\ 16 \\ 23 \end{bmatrix}$$

(い) 
$$\begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 4 \\ 4 & 5 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 5 \\ 16 \\ 20 \end{bmatrix}$$

(う) 
$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ 4 \\ 6 \end{bmatrix}$$

(え) 
$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 2 & 4 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}$$

(お) 
$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 2 & 4 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 \\ 5 \\ 16 \end{bmatrix}$$

これらの連立方程式は「加減法」によって解けるのであった。行列でも同じことを行うことができる。行列の**行基本操作**とは、

- (1) 2つの行を入れ替える。
- (2) 特定のひとつの行に、別の行の定数倍を加える。
- (3) 特定のひとつの行を定数倍する。

という操作のことを言う。

行列は行基本操作を何度も行うことにより、簡単な行列に変形することができる。このことは、方程式を解くときはもちろん、それ以外の目的でも大変重要である。

ダイコン、ジャガイモ、レタスはそれぞれは次のような栄養素をもっている。(いずれも 100 g あたりの量を  $\mu\text{g}$  単位で書いてある。文献を参考にしたので当てずっぽうというわけでもないが、かなりいい加減な数字にしてある。)

	ダイコン	ジャガイモ	レタス
ビタミン A	0	0	300
ビタミン C	10	15	5
カリウム	250	350	200
ナトリウム	20	1	2
葉酸	35	25	75

ダイコンを  $a$ 、ジャガイモを  $b$ 、レタスを  $c$  (単位は 100g) だけ食べたとして、そのとき摂取した栄養はといえば、上の表から

$$\begin{bmatrix} \text{ビタミン A} \\ \text{ビタミン C} \\ \text{カリウム} \\ \text{ナトリウム} \\ \text{葉酸} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 300 \\ 10 & 15 & 5 \\ 250 & 350 & 200 \\ 20 & 1 & 2 \\ 35 & 25 & 75 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a \\ b \\ c \end{bmatrix}$$

という行列算で得られるわけだ。(単に表を行列の記号に直しただけであることに注意。数学者はずぼらだから罫線なんかは引かないのだ。)

1日目にはダイコンを  $a_1$ 、ジャガイモを  $b_1$ 、レタスを  $c_1$  (単位は 100g) 2日目にはダイコンを  $a_2$ 、ジャガイモを  $b_2$ 、レタスを  $c_2$  (単位は 100g) だけ食べたとして、そのとき摂取した栄養を表に書くと、

$$\begin{bmatrix} (\text{ビタミン A})_1 & (\text{ビタミン A})_2 \\ (\text{ビタミン C})_1 & (\text{ビタミン C})_2 \\ (\text{カリウム})_1 & (\text{カリウム})_2 \\ (\text{ナトリウム})_1 & (\text{ナトリウム})_2 \\ (\text{葉酸})_1 & (\text{葉酸})_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 300 \\ 10 & 15 & 5 \\ 250 & 350 & 200 \\ 20 & 1 & 2 \\ 35 & 25 & 75 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_1 & a_2 \\ b_1 & b_2 \\ c_1 & c_2 \end{bmatrix}$$

ここで、 $(\text{ビタミン A})_1$  は 1 日目に摂取したビタミン量...etc である。

今は適当な栄養素だけを抜きだして計算したが、栄養素の数を減らしても、増やしても、同様の話ができる。

ほかにもこのような計算はあちこちで見られる。